

こども教育会議 会議録

日時	場所	出席	小松市長、浦郷教育長 教育委員（諸石、古場、河内、岡本、犬走、奥川、貝原、副島） ※欠席：森委員 浅井副教育長、諸岡こども教育部長、水町こども教育部理事、教育政策課（山田課長、樋渡係長）、こどもの貧困対策課（本多） 企画課（古賀課長、朝長係長、元澤、富永）
平成29年3月30日（金） 13:40～14:40	武雄市役所 （本庁） 委員会室		
1. 協議件名		第12回こども教育会議 （こどもの貧困対策について）	

議事録

内容	<p>1 開会（進行：古賀企画課長）</p> <p>2 議事（議事進行：小松市長）</p> <p>（1）こどもの貧困対策について</p> <p>①事業・取り組み紹介（浅井副教育長）</p> <p>⇒冒頭に、浅井副教育長から、こどもの貧困対策に係る事業・取り組みについて紹介し、その後出席者で意見交換を行った。</p> <p>②意見交換</p> <p><出席者の意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済格差が学力格差（学ぶ力）につながってはいけない。こども向けのサービスを提供している市内民間事業者を市として支援できないか。 ・商工関係と連携し、正規雇用の場を武雄市内で確保することが必要。（雇用の安定が）こどもたちの安心感を生み出す。 ・民間で実施されている学力支援活動（学習の場）と市がタッグを組んで取り組んだらどうか。 ・すでにある子どもたちを支援する体制を活かしながら、それをつなげていく役割をコーディネーターが担い、行政がバックアップする体制を整えれば、より多くの方が武雄市のサービスを利用できるのではないか。 ・金銭的理由で放課後児童クラブ、部活動、習い事に行けないこどもの対応（居場所づくり）が必要。 ・母子家庭は特に経済的に厳しい状況である。国の役割のもと、男女間賃金格差の解消が必要。 ・貧困家庭では3つのはく奪指標があるとされている。①物資・資源の欠如、②つながりの欠如（孤立・孤独）、③教育的体験の欠如。 ・母親への精神的、心理的支援がかかせない。いかに具体的に取り組むかが大事。 ・精神的に疲弊する前の早い段階から伴走型支援、家庭に入っていく支援を充実させていくことが必要。 ・放課後児童クラブの支援員との連携が必要。こどもは学校では見せない一面を放課後児童クラブで見せる。 ・困難度の高い世帯の子の自己肯定感が低いという調査結果が出ており、早急に対策が必要である。 ・タブレットの一人一台貸与の取り組みは、経済状況関係なく学びの機会をもつ大事な取り組みであった。また、武雄花まる学園の取り組みでは、地域の人が子どもたちに分け隔てなく声掛けをしていた。そのような取り組みが不登校児の減少、問題行動の減少などじわじわと成果につながってきている。
----	--

<市長の発言>

- ・「孤立」が大きな問題。親以外にも地域の人たちなど、大人がちゃんと自分のことを見てくれているという安心感が必要。
- ・課題に対して手を打つというアプローチは当然必要だが、多くの事業をやっている一方、いわゆる貧困率は全国的に上がってきている状況を鑑みると、根本的に考えを変えないといけないのではないか。
- ・情報発信の面では、いかに情報へのアクセスをしやすいかという観点が大事。
- ・すべてを市でやる必要はない、すべてを地域でやる必要もない。すでに実施している民間事業者等と組んでやっていくという発想が今以上に大事になる。
- ・学校や公民館の他、身近な居場所をいかに増やしていくかが大事である。
- ・奨学金については、国の給付型奨学金の創設・無利子奨学金の拡充等の動向を注視し、市として何ができるかを考えていく必要がある。
- ・教育と経済、雇用の両方考えていく必要がある。武雄市としてどういう子どもを育てたいのかという視点と、武雄市の将来の経済として何に力を入れていくかという視点が地域の持続可能性につながっていく。

3 閉会（進行：古賀企画課長）